

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000276		
法人名	有限会社 山幸興産		
事業所名	グループホーム室積なかよかん		
所在地	光市室積松原8番1号		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町受理日	令和4年7月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な室積という環境の中、海や松原に囲まれ季節を感じてのどかに暮らしていただけるような恵まれた立地にあります。気候が良い時には近所に散歩に出かけたり、お花見など近隣に車で出かけることもあります。食事は3食ともこの台所で、家庭的でご近所やご家族からいただいた旬の食材を使った季節感のある食事や、リクエストのあったメニューを作ったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、理念の中にある「安心できる穏やかな暮らし」を目指されて、利用者の「好きなこと」「してみたいこと」「食べたいもの」を大切にされ、利用者が自分らしく不安のない日々を過ごせるよう支援されています。食事は、利用者の希望を取り入れられて、職員の立てた献立で、旬な食材や差し入れの野菜を使用され、三食とも事業所で調理されています。利用者の状態によって、お粥やきざみ食、トロミ茶にされるなど、食事形態にも配慮されています。季節の行事食(正月のおせちやぜんざい、節分の恵方巻、敬老会の寿司、クリスマスのナゲットワンプレート)、誕生日会のケーキとちらし寿司、焼きそば、お好み焼き、カップケーキのデコレーションなど、食事を楽しむことができるよう支援されています。利用者の活躍できる場面作りや楽しみごととして、テレビの視聴、新聞や広告をみる、チラシを見る、歌を歌う、書初め、カルタ、トランプ、脳トレ(間違いさがし、計算、漢字)、ぬり絵、テレビ体操、口腔体操、足首や肩の運動、風船パレー、ことば遊び、季節に合わせた飾りづくり、七夕飾り、クリスマスの工作、洗濯物たたみ、新聞たたみ、利用者自身がトイレに行った時間をノートに記録されるなど、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるような個別の場面づくりに取り組まれています。コロナ禍で外出の支援は少なくなっていますが、感染予防対策に心がけられ、近くの海岸の散歩や日光浴、外気浴、桜見、少人数でのドライブ、自宅への一時帰宅など、戸外へ出かけられる支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員で考えた理念をかかげており、職員はその理念を実践できるよう日々のケアを行うように心がけている</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた理念は事業所内に掲示している。職員は、月1回の職員会議で確認し、共有している。職員は、「安心できる穏やかな暮らし」を目指して、利用者の「好きなこと」「してみたいこと」「食べたいもの」を大切にし、利用者が不安なく過ごせるよう実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ禍で地域とのつながりは難しいが、いろんな面で自治会の方には支えられていると実感している</p>	<p>自治会に加入し、ごみステーションの利用や回覧板を回している他、自治会館のカギの管理をしている。新型コロナの影響で、例年行っていた地区の清掃作業や地域の祭り、法人施設に来訪するボランティアとの交流が出来ていないが、地域の人が玄関先や庭の花壇の手入れする時には声をかけたり、周囲の散歩時に地域の人と挨拶を交わしている。地域の人からは、野菜の差し入れがあるなど事業所が自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域に向けて発信はできていないが、個別に相談を受け支援の方法を提案したり、援助につなげたことがある</p>	/	/
4	(3)	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価や外部評価で改善部分や不足していることについて取り組んでいる</p>	<p>管理者は、職員会議で評価の意義を職員に説明している。自己評価をするための書類を全職員へ配布し、それぞれが記入したものを管理者がまとめ、職員はそれを確認している。自己評価を通して、外出や地域の人の参加、研修など感染予防対策で、実施したくても出来ていないことについての振り返りができ、外出支援の工夫など課題の改善に向けて取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で会議を中止しているが、以前は参加していただいている方と色々な情報交換をしてサービスに活かしたこともある	会議は、年6回、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。この1年間は、新型コロナウイルス感染予防対策として書面で開催し、入居者の情報、行事報告、身体拘束の状況を報告している。会議の参加者を柔軟に募り、事業所への意見や地域とのつながりに活用していくことを目標に検討し、会議の充実に取り組んでいる。感染予防対策で結果を出すまでには至らなかったが、委員から個別に情報交換し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険係とは日ごろから連絡や相談を行っており、不安の解消やサービスの実践につなげている	市担当者とは、運営推進会議時や書類提出時に直接出向いて相談や助言を得ている他、電話やファックスで情報交換をしているなど協力関係を築いている。市から、新型コロナウイルス関連や権利擁護に関する情報の提供、手袋やマスクの支給がある他、市主催の会議にズームで参加している。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、メールで情報交換するなど日頃から連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在帰宅願望がある方もおられず、安全面から玄関には施錠をしている。身体拘束については虐待も含め内部研修を行っており、安易な拘束を行わないように努めている	職員は、「身体的拘束排除マニュアル」を作成し、年2回の内部研修の実施や年6回の身体拘束適正化委員会での話し合いを行うなど、抑制や拘束のないケアに務めている。スピーチロックについて、気になる場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関は施錠せず、外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と一緒に虐待については内部研修を行っており、日常生活の中での虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見人制度の研修はしていない。必要なケースについては、管理者と関係者、市の担当者と連携し支援につなげている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約や重要事項についてご説明し、ご理解をいただき、不安や疑問を解消できるようにしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書の説明時にお話しし、施設内にポスターや文書で掲示している。ご家族からのご意見や要望については直接お話しいただくこともあるし、請求書とともに送る書面にご記入いただいたものをいただくこともある。	契約時に、相談・苦情の受付体制や相談窓口、処理手続きなど家族に説明している。意見箱を設置している。家族からは、面会や電話などで意見や要望を聞いている。毎月の請求書送付時には、行事報告や家族の意見の記入欄を設けるなど、家族から意見が出やすいように工夫している。家族からは、体調の検査、権利擁護の対応、他県から帰省した孫の面会依頼などケアに関する意見があり、その都度職員で話し合って対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の時に提案してもらうこともあるが、まだ足りていないという意見もあった	管理者は、月1回の職員会議で職員からの意見や提案を聞いている他、日々の業務の中でも職員が意見を言いやすい環境を整えている。必要に応じて、職員の相談に乗っている。職員からは、物干し台の改修や年配職員の夜勤を含む業務改善に伴う勤務体制の変更など、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準等やりがいにつながる改善ができるよう、加算等についての見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人内での研修も少なくなってしまう、外部の研修への参加もかなり減ってしまっている	外部研修は、職員会議時に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。新型コロナに関する研修や権利擁護の研修に参加し、研修受講後は、職員会議で復命している。内部研修は、年4回、身体拘束の再確認、避難誘導の見直し、虐待、感染症について実施している。新人研修は、管理者と先輩職員が業務の中で行っている。資格取得については、休暇や勤務の調整、研修費用の助成など、働きながら学べるように支援している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県のグループホーム協会や市内のグループホーム協議会に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安の解消はできる時もあるが、ほとんどはご家族の不安や要望が多い。本人の意向とご家族の安心には温度差があると感じるが多い。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談があった時点で、ご家族と話し合うことで何に困っていて何が不安なのか等を解消できるよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みを受けても、その方がここでのサービスにはないものが必要だと判断した場合は、支援先の情報提供や地域包括支援センターへの相談等の対応を行っている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者がお互いに支えあいたいと思っているが、介護をする、されることが多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のために一緒に通院をしたり、外出支援をしていたが、現在はあまりできていない		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが少し落ち着いたときに短時間の面会をしたり、接触なしで写真を撮ったり、電話での支援で対応している	コロナ禍による面会制限を実施する中で、短時間による玄関先や窓越しでの面会を行い、家族や親戚の人、友人、近所の人の来訪がある。年賀状や手紙、電話の取次ぎでの交流を支援している。事業所として、近隣へのドライブや花見、自宅への一時帰宅など、馴染み人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ADLや認知の状態によりグループを分けて対応したり、関係性に注意して支援するよう心掛けている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に移った施設や病院との連携を取り、支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向の把握に努めているが、身体的にできない時はできるだけご本人の意向に沿えるよう検討をしている	入居時のフェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わり中で利用者の行動や表情、会話を「行動・介護記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前の介護サービス事業者等からの情報をもとに把握するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や何ができるかなど、スタッフ間で話をしたり会議で話し合い共有するようにしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の今必要としていること、必要なことを話し合い、修正をしながら介護計画に活かしている	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、月1回の職員会議でのカンファレンスで利用者のケアの内容を検討している。「行動・介護記録」や特記事項を基に、利用者や家族の思いや意向、主治医、薬剤師の意見を参考にして、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月もしくは6ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入したものを共有したり、会議で話し合って見直しにつなげている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほかの介護サービスや地域の方にご協力いただいたり、今までつながりのある方に支援をお願いしたりしている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で制限が多く、協働が難しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診により定期的、突発的な発熱等への対応などもしていただいている。ご本人が以前からそのドクターが主治医だった方も多く、安心して診ていただいている。薬局も相談や情報提供などで支えていただいている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医から月1回の往診がある。他科受診は、事業所で行い、家族への受診結果の報告は電話で行っている。協力歯科は、希望すれば往診がある。夜間や緊急時は、管理者を中心に主治医の指示を得て対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している小規模の看護師が週に3日バイタル測定に来ており、体調不良、けがについても対応している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に同行し情報提供や準備、ご家族との連携を行っている。退院時は事前に病院に出向き、情報収集を行ったうえで、退院時の受け入れを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご説明し、その時の状況に応じて必要な医療、ご本人にとって最善となるケアができるようにご家族と話し合い、他事業所とも連携をとっている。	契約時に、重度化した場合に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、主治医と話し合い、医療機関や施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	過去に起こった事故やヒヤリはつとを基に、次に事故をを起こさないような対応を話し合い等で決めている。初期対応などの訓練が定期的には行われていないので、回数を増やす必要がある。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に、対応した職員が記録し、管理者に報告した後に、他の職員に回覧し、申し送りで伝えて情報を共有している。その後は、月1回の職員会議で再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故対応については、内部研修時に感染症について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応など実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や避難方法の見直しは行っている。以前は地域の方と一緒に消火訓練や避難訓練を行っていたが、最近はできていない。	「非常災害対策計画」を作成し、年1回、事業所独自に夜間の火災を想定した避難訓練を利用者も参加して実施している。法人施設の館長は地元の消防団に所属しており、地域住民との協力体制を構築し災害時に備えている。非常時に備えて、食糧品や水、介護用品、ガスボンベ、ガスコンロなどを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の確認をする時には他の方に聞こえないようにするなど、プライバシーを確保するよう心掛けている。人により話し方を変えて、その方の誇りを損なわないようにしている。	職員は、「プライバシー保護マニュアル」に基づき、入浴時や排泄時を含めたケアサービス提供時は、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉遣いや態度に気を付けている。文書類等は適切に保管し、守秘義務を順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる方にはご本人の希望を聞いたり、できない方にはYesNoで答えられるようなクローズドの質問をして自己決定を促している		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決まった日課の中で、自由にできることについては対応するようにするが、希望に沿った支援はあまりできていない		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みがある服や好みのものを、気候に合わせて選んでもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用しながら食べやすく調理している。希望を聞くこともある。ここで調理しているので料理の旬も満ちている。準備は、衛生面のこともあり参加していない。	食事は、利用者の希望を取り入れて、職員が献立を立て、旬の食材や差し入れの野菜を使用して、三食とも事業所で調理している。利用者の状態により、お粥やきざみ食、トロミ茶など食事形態に配慮している。利用者と職員は、同じ食事を食べている。季節の行事食（正月のおせちやぜんざい、節分の恵方巻、敬老会の寿司、クリスマスのナゲットワンプレート）、誕生日会のケーキとちらし寿司、焼きそば、お好み焼き、市販のおやつ、カップケーキのデコレーションをするなど、食事を楽しむことができるよう支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録しており、必要な分が摂取できるようにしている。食べる量、形状はその人ごとにあつたものを提供している。いただいた野菜なども使い、栄養のバランスがとれるよう献立を立てている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあつたうがい、歯磨き、義歯洗浄ができるようにしている。できない方には、仕上げ磨きをしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄時間や量を把握し、排泄パターンを共有。パットの種類や使用方法を検討しながら支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、水分補給を促している。運動やレクなどで体を動かしているが、それでも排泄が難しい時は、処方薬を飲用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は施設で決めているが、比較的ゆっくり入れていると思う。その方の体の状態や体調に合わせて回数は変えている。	入浴は、日曜日を除く毎日、14時30分から16時までの間可能で、その日の行事や利用者の希望や体調に合わせて週3回は入浴出来るよう支援している。利用者の状態によって、更衣、シャワー浴や清拭、足浴などの個々への対応や入浴剤、季節の柚子湯を使った入浴を楽しむ工夫もある。入浴したくない人には、声かけを工夫するなどして無理強いしないようにしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はその方に合わせて午睡をしたり、居間でゆっくりしたりしている。夜の入眠時間はまちまちで、テレビを見たりしてくつろいだ後入床している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容はファイルでいつでも閲覧できるようにしている。主治医の指示や情報についても閲覧できるようにしている。薬の不明な点は、薬局に問い合わせたり相談している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれできることが違うので、レベルに応じてレクを行っている。新聞などを読んだり、かお拭きタオルをたたんでもらったり、いろんな選択肢を提供している。	テレビ(歌番組、クイズ、料理、バラエティ)の視聴、新聞や広告をみる、チラシを見る、歌を歌う、書初め、カルタ、トランプ、脳トレ(間違いさがし、計算、漢字)、ぬり絵、テレビ体操、口腔体操、足首や肩の運動、風船バレー、ことば遊び、季節に合わせた飾りづくり、七夕飾り、クリスマスの工作、洗濯物たたみ、新聞たたみ、利用者自身がトイレに行った時間をノートに記録するなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるような個別の場面づくりに取り組んでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍なので外出も限られているが、通院、自宅へ一緒に行く、近所の散歩、少人数でのドライブを行っている。	感染予防対策に心がけ、気候の良い日には、近くの海岸への散歩、日光浴、外気浴、桜の花見、少人数でのドライブ、自宅への一時帰宅、家族の協力を得て銀行でキャッシュカードを作るなど、戸外へ出かけられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かっているもので、必要な時には使えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人自ら電話することを支援している。年賀状でのやり取りを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、湿度の調節をし、嫌な臭いがしないよう気を付けている。壁面は時期に応じて飾っており、季節が感じられるようにしている。台所からは調理中おいしそうな匂いがしたりする。	玄関には、面会用に消毒とベンチを置き、ひな人形や五月人形など季節の飾りつけや利用者の作品を貼るなどして、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。共用空間には、ぬり絵など利用者の作品や行事の写真、立体的な季節の飾りつけをして季節感を出している。テレビを囲んで座れるようにソファやイスを置き、皆で歌を歌ったり、利用者同士で会話を楽しむ事ができる。キッチンからは、調理の匂いや音がして生活感がある。トイレは掃除が行き届いていて、匂いがしないよう配慮している。温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングで新聞を読んだり、話をしている。居間ではテレビを見たり、仲の良い人とおしゃべりをしたりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔作った作品を持ち込んだり、家族の写真をお持ちいただいたりしている。	整理ダンス、籐ダンス、時計、テレビ、アルバム、カレンダーなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や孫の写真、誕生日の色紙、利用者の作品を飾って、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の表札、トイレやふろの表示など一人できけるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム室積なかよかん

作成日: 令和 4 年 6 月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組みができていない	運営推進会議の参加者を柔軟に募り、事業所への意見や地域とのつながりに活用していく	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の充実 会議の内容を充実させる 	1年
2	15	全職員が応急手当や初期対応など実践力を付けられていない	応急処置や初期対応の定期的な訓練を行い全職員が実践力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> AEDを使用した心肺蘇生訓練 気道異物除去、骨折、出血等の初期対応の訓練 	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。